

問1 石狩川の上流域に位置し、旭川市などを中心とする上川盆地で見られる大規模な農業の特色として、最も適切なものはどれですか。 (2016年

群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 大規模な機械を用いた、小麦やてんさい(ビート)を生産する畑作が中心の地域である | 2. 夏の涼しさを利用して、キャベツやレタスなどを出荷する高原野菜の栽培が中心である | 3. 冷涼な気候を活かして、牛を飼育し生乳を生産する酪農が最も盛んな地域である | 4. 石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である |
|--|--|---|---|

問2 北海道の生乳の利用状況について、栃木県などの都市圏に近い地域と比較した統計によると、北海道では生産された生乳の8割以上がバターやチーズなどの原料となる「加工用」に回されています。このように、北海道で加工用の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 1. 大消費地から遠いため、日持ちのする乳製品に加工して出荷しているから | 2. 道内の人口が少ないため、飲料としての需要がほとんど存在しないから | 3. 地域に根ざした地場産業として、伝統的な発酵食品の製造が推奨されているから | 4. 冬の期間が長く気温が低いため、液体としての輸送が困難だから |
|--------------------------------------|-------------------------------------|---|----------------------------------|

問3 北海道のほぼ中央に位置する内陸部の気候について述べた文として、最も適切なものはどれですか。この地域では、海岸部と比較して夏と冬の気温差が大きく、冬の気温が氷点下になるという特徴が見られます。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|-----------|----------|----------|
| 1. 南西諸島の気候 | 2. 瀬戸内の気候 | 3. 海洋性気候 | 4. 内陸性気候 |
|------------|-----------|----------|----------|

問4 北海道の農業において、十勝平野などを中心に大規模に栽培されている「てんさい」の生産背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 亜熱帯の気候に適しており、かつては沖縄で栽培されていたものが伝わった。 | 2. 水はけのよいシラス台地の特性を活かし、寒冷地でも育つよう品種改良された。 | 3. 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。 | 4. 温暖な気候を好む性質を持つため、夏場の長い日照時間を活かして栽培される。 |
|--|---|--|---|

問5 北海道ではパルプ・紙・紙加工品製造業が地域の主要な産業の一つとなっています。この工業が北海道で発達した背景として、最も適切な理由を選びなさい。 (2021年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|----------------------------------|
| 1. 大規模な消費地である東京圏に隣接しているため | 2. 内陸部に高度な技術を持つ機械部品工場が集積しているため | 3. 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため | 4. 海外から輸入した木材チップの加工に特化した貿易港があるため |
|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|----------------------------------|

問6 十勝平野で行われている、同じ土地に異なる種類の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」の目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 急傾斜地において土砂崩れを防ぎながら、効率よく肥料を吸収させるため | 2. 冷害による被害を最小限に抑えるため、収穫時期を極端に分散させるため | 3. 特定の病害虫の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため | 4. 米の生産調整(減反政策)に伴い、水田を畑地に転換して活用するため |
|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|

問7 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。 (2024年 岡山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 年間を通して温暖で潤湿な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。 | 2. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。 | 3. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。 | 4. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。 |
|--|---|---|---|

問8 北海道の産業構造の特徴について、市町村別の就業者割合をまとめた資料によると、道東や道南の広い範囲を含め、多くの地域で共通して高い水準にある産業分類があります。商業や観光業、医療・福祉といったサービス業を含むこの産業分類として、正しい名称を選びなさい。 (2026年 三重県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------|------------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. 先端技術や情報通信を主体とする第四次産業 | 2. 商業やサービス業を主体とする第三次産業 | 3. 農林水産業を主体とする第一次産業 | 4. 製造業や建設業を主体とする第二次産業 |
|-------------------------|------------------------|---------------------|-----------------------|

問9 北海道は日本最大の米の栽培面積を誇りますが、各都道府県的全耕作面積に占める米の割合を示した統計では、東北地方の多くの県よりも低い数値となっています。このような数値が示される理由として、北海道の農業の特色を踏まえた適切な説明はどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 小麦やてんさい、酪農などの米以外の作物の生産も盛んであり、農業の多様性が高いため | 2. 冷涼な気候の影響で米の栽培が制限されており、米の生産量が日本で最も少ないため | 3. 大規模な土地利用は行われているものの、農地の大部分が住宅地や工業団地へ転用されているため | 4. 東北地方に比べて一戸あたりの経営面積が小さく、米の栽培に特化した効率的な農業が困難なため |
|---|---|---|---|

問10 ニセコ町や倶知安町が進める「ニセコモデル」において、外国人宿泊客の急増に伴う課題を解決するために、特に重視されている取り組みの内容として正しいものはどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 地元の農産物を輸出するために、観光客の移動手段を制限して物流網を優先すること | 2. 冬季の観光客を分散させるため、冬のスキー場を閉鎖して通年型の農業体験へ転換すること | 3. 国内の修学旅行生を優先的に受け入れるための、外国人客向けの宿泊料金の引き上げ | 4. 公共交通機関と宿泊施設を結ぶ二次交通の利便性向上と、官民連携による環境整備 |
|---|--|---|--|

問11 日本の都道府県の配置において、最北端に位置する北海道は、新潟県や鹿児島県といった他の地域と比較して特有の自然環境を有しています。北海道の大部分を占める気候帯の背景や仕組みについて述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2024年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。 | 2. 季節風の影響で一年中雨や雪が多く、夏と冬の気温差がほとんどない。 | 3. 日本海を流れる暖流の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖である。 | 4. 周囲を海に囲まれているため、本州の山梨県などの内陸部よりも夏は暑い。 |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|

問12 北海道東部の根釧台地に位置し、夏に濃霧が発生しやすい冷涼な気候を生かして大規模な酪農が行われており、農業産出額の大部分を乳用牛が占めている自治体はどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 北見市 | 2. 別海町 | 3. 夕張市 | 4. 新篠津村 |
|--------|--------|--------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である	北海道の旭川市周辺に広がる上川盆地は、かつては泥炭地などが広がる耕作に不向きな土地もありましたが、大規模な土地改良と石狩川の水の利用によって、日本有数の稲作地帯へと発展しました。北海道において酪農が盛んなのは主に根釧台地、畑作が盛んなのは十勝平野といったように、地域ごとの農業の特色を区別することが重要です。
問2	答え 1 大消費地から遠いため、日持ちのする乳製品に加工して出荷しているから	生乳は鮮度が重要で傷みやすいため、大消費地である東京圏などに近い栃木県のような産地では、鮮度が求められる「飲用」としての出荷が中心となります（約99%）。一方で、北海道は広大な土地を活かした酪農が盛んですが、主要な消費地までの距離が遠く輸送に時間がかかるため、バターやチーズといった保存性の高い「乳製品」に加工することで、全国的な流通を可能にしています。
問3	答え 4 内陸性気候	北海道の中央部は海から離れているため、比熱の小さい陸地の影響を強く受けます。水に比べて陸地は温まりやすく冷めやすいため、夏は気温が上がりやすく、冬は極めて寒冷になる内陸特有の気候が形成されます。冬には氷点下まで気温が下がり、積雪も見られるのが大きな特徴です。
問4	答え 3 冷涼な気候に適した性質を持つため、日本では北海道が唯一の産地となっている。	てんさいは寒冷な環境でよく育つ植物であり、日本のなかでは冷涼な気候を持つ北海道が栽培の適地です。そのため、全国の収穫割合を示した資料などでも北海道が100%を占めるという極めて特徴的な分布を示します。砂糖の原料としてだけでなく、輪作体系の一翼を担う作物としても重要です。
問5	答え 3 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため	パルプ・紙・紙加工品製造業は、木材を原料とするため、森林資源が豊富な地域で発達しやすいという特性があります。北海道は日本全体の森林面積の多くを占めており、この豊かな森林資源を背景に製紙業などが地域の主要産業へと成長しました。
問6	答え 3 特定の病害虫の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため	十勝平野では、ジャガイモ・小麦・てんさい・豆類の4品目を中心とした輪作が確立されています。同じ場所で同じ作物を栽培し続けると、土壌の成分が偏ったり、特定の病気にかかりやすくなったりする「連作障害」が発生しますが、輪作によってこれを防ぎ、持続的な農業を可能にしています。
問7	答え 2 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。	北海道は梅雨の影響をほとんど受けず、夏は涼しく冬は雪が多いという気候の特色があります。この特色を活かした観光業や農業が発展しており、特に占冠村やニセコ町のような国際的なリゾート地では、冬のスキーシーズンや夏の避暑シーズンに外国人労働者が増加します。このように、その土地の自然環境や気候が、産業構造や地域住民の構成に大きな影響を与えています。
問8	答え 2 商業やサービス業を主体とする第三次産業	北海道は大規模な農業が盛んなイメージがありますが、実際の就業者数の構成比を見ると、他の都府県と同様に商業や観光業、サービス業などの第三次産業に従事する人の割合が最も高くなっています。特に道東や道南などの地域においても、豊かな自然資源を活かした観光業や、地域住民の生活を支えるサービス業が産業の主体的存在となっているため、広い範囲でこの割合が高くなっています。
問9	答え 1 小麦やてんさい、酪農などの米以外の作物の生産も盛んであり、農業の多様性が高いため	北海道は、一戸あたりの経営面積が大きく、大規模な機械化農業が行われているのが特徴です。米の栽培面積そのものは日本最大級ですが、それ以上に、冷涼な気候を活かした小麦、大豆、てんさい、じゃがいもなどの畑作や、広大な土地を利用した酪農も非常に大規模に展開されています。そのため、農業全体で見ると「米以外の作物」の占める割合が大きく、米の単作傾向が強い東北地方の各県に比べて、全耕作面積に対する米の比率は相対的に低くなります。このように、多様な作物を組み合わせた大規模な農業経営が行われていることが北海道の大きな特色です。
問10	答え 4 公共交通機関と宿泊施設を結ぶ二次交通の利便性向上と、官民連携による環境整備	特定の季節に外国人客が集中すると、移動手段の不足や言語の壁といった課題が生じます。これに対し、タクシーやバスなどの「二次交通」を柔軟に運用し、民間企業と自治体が役割を分担して観光客の受け入れ体制を整えることが、ニセコモデルの本質的な取り組みです。
問11	答え 1 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。	北海道が属する亜寒帯（冷帯）は、赤道から離れた高緯度地域に特有の気候です。太陽からのエネルギーが少ないため冬は極めて寒冷になりますが、夏は日照時間が長くなるため一定の気温まで上昇します。その結果、夏と冬の気温の差が他の温帯地域よりも顕著に現れるというメカニズムを持っています。
問12	答え 2 別海町	根釧台地は寒流である親潮の影響で夏でも気温が上がりにくく、稲作や畑作が難しいため、広大な土地と牧草を利用した酪農が発達しました。選択肢の北見市は玉ねぎなどの畑作、新篠津村は石狩平野での稲作が中心であり、夕張市はメロン栽培などで知られています。